

---

# ブレイクブレイド-BROKEN BLADE- 約束の五人

dragoons

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ブレイクブレイド - BROKEN BLADE - 約束の五人

### 【Nコード】

N3717P

### 【作者名】

dragoons

### 【あらすじ】

アッサム国立士官学校の問題児5人組の物語。

## 邂逅 その巻

「また、会おうぜ。また、この五人で。」

「……あづい……。」  
と呟く人影が砂漠にポツンと一つ。

もちろん暑いと愚痴を言ってもどうにもならないのは分かっている。しかし、

「あづい。」

と言わなければとてもじゃないがやってられない。

悲しいかな、人間の性。

「つたく。なんでこんなだだつ広い砂漠なんか歩く事になんだよ。」  
そう。この青年、実は砂漠を歩いている。途中まではある程度舗装された道を二輪で進んでいたのだが何故か、壊れてしまった。

「あんなボロに乗って来るんじゃないかっただぜ……。」  
少年は先を見据えるがまだ都の風景すら見えてこない。

今、この青年が向かっているのは「王都<sup>しゅう</sup>ビノンテン」。

「クルゾン大陸」の一国「クリシュナ王国」の王都だ。

「あゝ。もはやダルイとかってレベルじゃねえぞ、こりゃあ。」

と、ブツブツ呟いている青年……ユウマ・シックゾールはその広大な台地の上に寝転んだ。

砂漠なので当然熱いに決まっている。

今更それに気付いたように、ユウマは跳ね起きた。

「あつちーっ！……ん……？」

何か砂煙を上げてユウマのほうに近づいてくる。

（ありゃあ海賊かなんかか？）

どんどん近づいてくる砂煙。

「おい！ユウマー！！」

「この声……。ライガットか！？」

ライガットと呼ばれた青年を乗せた二輪がユウマの横に停まった。

「久しぶりだな、ユウマ！」

「ああ、ホントに！……って、何でお前がこんな所に？お前もホズルに呼ばれたのか？」

そこで、ユウマの目にライガットの前に座って二輪を運転していた人物が見えた。

「えーっと、……。誰？ですか。」

「悪い。自己紹介が遅れた。私はクリシユナ王国の将軍、バルドだ。」

「えー、へ？将軍ってあの？つか、ハッ！将軍さま！？」

アタフタとするユウマに、バルドが声をかけた。

「こんなところで立ち話もなんだろう。私は君たちを連れて来るよ  
う仰せつかっているのね。」

奇妙な一拍が空いてから、

「我がクリシユナ王国の国王、ホズル様からな。」

## 再開

ここは、クリシュナ王国の首都ビノンテン。

更に言うなれば、その王城な訳だが。

そんな、場所を二人の青年が歩いていた。

その青年達の名は、ユウマ・シツクゾールとライガット・アロー。

ユウマは、澄んだ緑色の目が特徴的な青年だ。童顔という訳ではないが、「大人」というほどの雰囲気も感じさせない。その容姿・・・美貌といつてもいいかもしれない・・・もあいまってなんだか危うささえも感じさせる。まあ、本人は全く自覚していない、超元氣野郎なのだが。

一方、ライガットはえくと、説明メンドイ。調べれば出てきます。

そして、何故この二人がここに居るのかというと、クリシュナ9世つまり今のクリシュナ王国の国王ホズルからの召還令状を受けての事だった。

実は、このユウマとライガット、それとホズルにその妻のシギユンは学友だった。

そして、もう一人・・・いるのだが、それはまたの機会に。

「しっかし、なんだいきなりホズルの奴。同窓会でもする気になったのか？」

「ホズルの奴、ゼスも呼んでるのか？」

「いや、俺も知らねえよ。ただ、なんとなくそうなんじゃないのかなと思っただけで。つーか、まあゼスもこんな所にまで来てる暇無いだろ。」

ユウマの言葉を聞いて結構露骨にがっかりした顔をするライガット。その様子を見て、ユウマに思い当たるものがあった。

（そうか。こいつにとってはかなり久しぶりになんだな。）

ライガットはユウマ達とは同級生だが、二回進級した所で家庭の経済面の理由から学校を辞めている。

(そうだよな。このご時世、いつでも会えるって訳じゃない。特にライガットの場合は……。)

と、そんな事を考えていると後ろから声が掛かった。

「ライガット・アロー！ユウマ・シックゾール！」

この澄き通った声の持ち主は……、

「よう。久しぶりだな。シギユ……ッ!!」

そんな事を言いながら、ユウマは振り返ると銃口をユウマ達に向けている女性が立っていた。

揃って両手を挙げて、投降の姿勢を示すユウマとライガット。

その時、風が吹き銃を突きつけてきている女性のかぶったフードがめくれた。

まず、目に映るのはブロンドの髪。その瞳は声と同じでどこまでも澄み切った青。そして、整った顔だちと肢体。

どこの誰が見ても美女だった。

「あの〜、シギユンさん……?」

おずおずとライガットが声を掛けると、

「どうしてホズルと私の結婚式に来なかったの!??」

「色々……忙しかったんだよ……。」

二人の声が重なる。

「親友の結婚式より大事な事ってなに？」

更に質問してくるシギユンに対し、黙り込む二人。

「私たちが嫌いになっただけではないのね？」

「当たり前です。」

二人の即答と共に、シギユンが二人に抱きついてきた。

「会えて嬉しいよ、ライガット、ユウマ……。」

そこで、ユウマもシギユンを抱き返しながら思った。

(ああ、そうか……。おれも……おれも久しぶりだったんだな。)

ここはクリシュナ王国、王都ビノンテン・王室。  
そこに入ったところでユウマ、ライガット、シギユンの三人に声がかかった。

「よう！ご苦労さん。このイスいいだろう？」

と問いかけてくる青年が一人。

彼の名前はホズル。ユウマ達の学友にしてこのクリシュナ王国の国王でもある。

しかし、その声は王座から聞こえてきたのではなく、この部屋にある別のイスからだった。

「妻・国民として王座を嫌う国王ってどう思う？」

ライガットの質問にもユウマとシギユンも目を逸らすしかない。

「聞こえたぞ、その愚民め。国王侮辱罪で……」

「……死刑。」

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3717p/>

---

ブレイクブレイド-BROKEN BLADE- 約束の五人

2010年12月18日23時24分発行